

医療、福祉の現場で寄り添う僧侶を ビハラー僧の養成始まる

仏教精神に基づいた社会貢献への一歩として、宗派はこのほど、医療や福祉の現場で、医師、看護師、介護士などと協働できる臨床専門の僧侶の養成を始めることを決めた。

試行段階として十月から「ビハラー僧養成研修会（仮称）」を行い、その受講生募集を始めた。

宗派は一九八七年から「医療、福祉、仏教の融合」を掲げてビハラー活動者の養成研修会を行っており、その修了者が各地で、悲しみ、苦しみを抱えた人に寄り添う活動を続けてきた。

二〇〇八年には、ビハラー総合施設として、京都市城陽市に特別養護老人ホーム「ビハラー本願寺」と独立型緩和ケア病院「あそかビハラー病院」を設立。特に「あそかビハラー病院」ではビハラー室を設置し、現在四人の僧侶が医療チームの一員として、がん患者や家族の苦悩や悲嘆など、精神的なつらさに寄り添う活動を行っている。僧侶を含めた緩和ケアは医療者にも注目され、「お坊さんのいる病院」として、多くの医療者らが同病院の見学に訪れている。

現在、病院や施設での看取りが多い中、医療者では解決出来ない「心のケア」

を宗教者に求める声や、東日本大震災を機に、布教を目的とせず心のケアを提供する宗教者「臨床宗教師」が注目されている。その現状を踏まえ、宗派はこれまでのビハラー活動の実績を生かして、臨床専門の僧侶の養成を行っていくことになった。

研修を終了したビハラー僧を雇用する協力病院や施設を開拓していくことも視野に入れており、それによる現在のビハラー活動のさらなる展開にも期待を込めている。

養成研修は十月二日から来年二月二十七日まで、前・後期に分けて座学と実習を行う。前期は本山・伝道院を主会場に十四日間の講義、後期は、あそかビハラー病院、ビハラー本願寺、あそかビハラー病院の僧侶が出席している三菱東京都病院などで、実習を中心とした五十四日間の研修を行っていく。

講師は、宗門校で臨床宗教師養成に関わる龍谷大学・鍋島直樹教授と武蔵野大学・小西達也教授、宗派ビハラー活動推進委員の野村康治さん、あそかビハラー病院常駐僧侶・花岡尚樹さんほか、宗門外からも大学教授、現役チャプレン、緩和ケアに携わる医師などを講師に招く。

大規模リフォームします！

かねてより計画であった、境内のバリアフリー化を含めたリフォーム工事が九月より始まります。

「車椅子でお墓参りができる」を目標に計画してきましたが、一般墓地の石畳やトイレの広さなどが、資金や物理的な事情により達成できませんでした。しかし、本堂前の玉砂利をやめて段差を解消しますし、お墓参りの際にちよっと立ち寄れる休憩所も作る予定です。遺体の安置室も新設します。この安置室は6畳程度の和室で、二人から十人程度の小人数でのお見送りに対応いたします。

工事は秋のお彼岸後に始まり、春のお彼岸までに終わらせる計画です。その間の法事などは本堂にて勤めることが可能ですが、足元が大変悪くなることが予想されます。迷惑をおかけしますが、なにとぞご協力くださいませ。

毎週火曜日は 寺務所定休日

毎週火曜日はお休みをいただいております。
急用の場合はお寺までお電話ください。住職の携帯電話に転送されます。



墓地の西側の駐車場(9台分)に新しく庫裏を建設中です。駐車台数は5台に減ってしまいますが、8月より利用できる予定です。ぜひご利用ください。

マイクリニック様の向かい側も契約しております。2時間のサービス券お渡しできます。



教えて！

浄土真宗の「お盆」

お盆には、どんなお供えをすればよいのでしょうか？

お盆には、^{むか}迎え火^{おく}送り火・^{ぼんちようちん}盆提灯・^{しょうりょううま}精霊馬など、宗派や地域によって異なるお供えやおかざりを行うことがあります。

- 迎え火** → 故人があの世界からこの世にかえって来るときに迷わないよう目印として焚く。
- 送り火** → 故人があの世界へ迷わず帰られるように、また穢れが残らないように盆にちなんだものを燃やす。
- 盆提灯** → 故人があの世界からこの世にかえって来るときに迷わないよう目印として用いる。特に初盆は、初めての帰りだから目印を大きくしようという意味で重用される。
- 精霊馬** → キュウリを馬に見立て、故人が急いで戻って来られるように。ナスは牛をあらわし、故人が供物を積んでゆっくり帰れるように。

故人は迷いの存在ではありません

どれも、故人を大切に思う気持ちが表れた習慣ですが、故人を迷いの存在として扱うことになります。私たち浄土真宗は七き方を仏さまとして仰いでいく教えです。七き方は決して迷いの存在ではなく、常に私たちを阿弥陀さまとともに見守ってくださる仏さまと仰がせていただきます。ですから、特別なお供えやおかざりをする必要はありません。いつも通りに、お仏壇にきれいなお花や季節の果物、お菓子などをお供えして頂ければ結構です。